



中村修三 画

青春時代の暗さをふりかえって
西谷 宣雄

自分史の五十年（二）
—共産党物語り—

清水 新一

京都・府市民団体協議会
二十五年の歴史（三）
田中 弘

「天皇事件を語る会」が開かれました
小畠 哲雄

総会のお知らせ
6・15（土）、ハートピア京都
一・三〇より
小講演 大久保 史郎氏
「有事法制について」

編集後記

青春時代の暗さをふりかえつて

西谷 宣雄

一九四五年三月、太平洋戦争も敗北濃厚で本土決戦が叫ばれるという時期に、帝国海軍戸塚衛生学校に補習科学生として入校しました。学校の所在は、横浜市戸塚でした。

したが、周囲に人家も疎らな山の中

で、海軍の教育機関らしからぬ環境でした。丁度、東京や横浜にB29などの猛烈な空襲のあつた時期で、学校からも被災者救援に活動するような状況でした。

当時、学校の講義の中で、「不馴化性全身衰弱症」という今日文獻にも記載されていない疾患が紹介されていました。それは、飛行

予科練習生や、兵学校生徒など、きびしい訓練をうけている若者たちが栄養失調症を起こし、突然死を来すことがあるという症候群で、特に、シゴキのきつい部隊内に多発しているのを特徴とされていました。

この事は「集団生活」の中で適応しきれないストレスが加えられると、致死的な健康破壊が進むこ

とを示すもので、今日の社会環境の中にも、もう一度ふり返つてみる必要がある問題点を示していると思います。

学校卒業間際に、同級生S氏がトラックから転落死亡したという痛ましい事故があつたことは忘れられませんが、その後、赴任した南九州K海軍病院でも、同様の交通事故を含む訓練による傷病者例が多い事を知り（戦時の記録は余りありません）軍隊内の生活条件の中にある危険性・不条理性を考えられずにはいられなくなつていました。

海軍の医療体制そのものの矛盾も、可成り強くなつていました。

例えば、K海軍病院在任中にも戦友N氏が赤痢から腹膜炎をおこして、あと数日もすれば復員できるという日に亡くなられたことがあります。

当時、特効薬として奨用されたスルファグアニジンも、「どうしたことか？」使用されていなかつ

たといわれ、当時としてはただ深い疑惑を感じながら、どうする事も出来なかつたのが、未だに残念です。

以上述べてきたようなさまざまなものにつき当つて不満をつづらせてきた私たち五十名の見習尉官（衛生学校入学当時からの職階）は、「早く実施部隊に転属して欲しい」という、署名血判つきの嘆願書を提出しました。

この嘆願書が病院当局にわたされると、病院副官S少佐は全員を集合させたうえで、筆頭者に骨折を伴う打撲傷を負わせるという凄じい制裁を加えて、却下して下さいました。

その直後、八月十五日という日本人にとつては、忘れられない日を迎えていたのですが、南九州では、軍関係の情報さえ伝達されにくく、状況になつてきましたので、私たちが、「終戦」を知ったのは、実際にその日から一週間後の、八月二十二日でした。

敗戦を口惜しがる人々も、当然多かつたのですが、その日の夕刻、軍艦旗を卸し、軍陣医療関係の書物などと共に、焼き棄てた時の私は、もう、これ以上、大本営発表などと云う虚報におどらされ、軍の機密で眼かくしされた生活を強

いられることは、ないであろうと云う、期待を持ち始めました。

以上、僅か半年足らずの海軍々医見習尉官としての生活体験でさえも、私の人生観をいくらか変え、その様々な実態を知れば、よりきびしい現実は、当時海軍々人であつた多くの人々から語られており、その様な意味で、保守的で軍隊に対し肯定的な考え方の人々でも衝撃をうけるだろうと思われる程です。

例えば、一九四四年、前に記した戸塚海軍衛生学校で起つていったという事件も、そうした意味で最悪の事例です。

即ち、訓練のきびしさに耐えかねて、脱走した衛生兵が、「逃げられぬ」と観念して、学校近くの山林の中で、くび吊り自殺し付近住民の知らせによつて、学校へ戻された遺体が、こともあろうに、炎天下の兵舎入口で三日間もさらしものにされていたと云うのです。この様な事実は、ごく最近「赤旗」紙上で始めて知り得たのですが、かりにも、人の命をあずかる責務をもつ者としては、考えられない悪徳行為すら、絶対主義的な天皇制軍隊なるがゆえに容認されていましたと云うことを想起して慄然とさせられました

(3) 2002年5月15日

燎原

最近、医療の荒廃を問題視する人々の中にも、このような道義の頽廃が、自由社会の所産であるときめつける傾向がある様ですが、人間を無権利な状態に追いこむ管理社会の中でこそ、もつとも、悪質な、無法行為が、支配者の名をかりて、横行するのだと云うことについても、注意する必要があります。

その後、私は、船医としてかつての戦場であった東南アジアの海を旅する経験をもちましたが、帝國海軍部隊によつて、行なわれた、「敵国」船員、原地住民などの虐殺行為は、「聖戦」のイメージを、完全に失墜させるに足るものであることを、戦争から生き残つた船員、原地住民の思い出話から、知らされ、強い衝撃をうけました。

その様な、戦犯的行為は、アメリカ軍にもみとめられ、私の在任したK海軍病院でも、病棟の屋根の赤十字の真中をうちぬいた米軍機の銃撃によつて、非戦線員の婦人事務員が戦死すると云う悲惨な事実を現認させられ、全面戦争の冷酷さを実感しはじめたのです。

その後、広島・長崎の原爆攻撃をはじめとする諸都市の無差別攻撃の実態を知るに及んで、非情で凄惨な、戦争技術の発達が、人類

絶滅の日を近からしめる役割を果しつ、あることを認めさせられました。

戦後、三十年、とくに、一九六〇年代になつて、「高度経済成長」をとげて来た、産業社会では、労働者には、職業病を、市民には、公害病を多発させて来ました。

この様な問題を抱えながら、国家行政当局は、労働安全衛生法の「改正」、N02の環境基準緩和などを強行し、労働者・市民の健康権を、資本のいうまゝに、うばい続けていいるのです。

クラゼウイツは、「戦争は別の手段による、政治の継続である」と云い、人民を抑圧する悪政の統くところに、戦争の危機が胚胎することを示唆していますが、この頃になつて、アジア諸国に侵略の手をのばし続けるアメリカ軍隊の補完勢力としての「自衛隊」は増強されています。時を同じくして、海軍衛生学校同期生の会などが、ノスタルジアを以つて、しばしば開かれるようになりましたが、軍艦旗のマーク入りの封筒に入った招待状には、「昔の名前で出ています」と云わんばかりの、護衛艦に乗つて、短い航海を経験するなどの、プログラムが書かれていたりするのです。

「文章」では紙数の関係で、意を

私自身は、この様な傾向には、かなりの抵抗を感じ、出席できなこと云う返事を出し続けています。が、ほんとうは、昔の戦友達とも語りあつて、平和で自由な生活をきづき、人々の生命と健康を守る為の努力を改めて誓いあうということを為すべきではなかつたかと思われます。

もとK海軍病院副官S少佐に最近再会しましたが今度は積極的な産業医学者として、労働者にも人望あつい人としてであり、いささかのショックと共に今昔の感を深くした事であります。

然しその事は、もと軍人として

共に行動した人々を、今なお敵視するという事ではありません。S先生のような方々とも、私は学問上の問題では、ますます協力しま

い、人々の健康を守るために努力を続けるべきだと考えていますし、むしろそれを通じて、再び五十年前の惨めなあやまちをくり返さない為にも力を注ぎたいと思います。

(にしたに のぶお 医師)

◆ 正誤 ◆

一三九号(2)ページ四段二八行の「日本国憲法のもと」のつぎに「と」をいれます。須田稔氏の申し入れによりました。筆者と読者におわびします。

訃報

かつて原稿をお寄せ頂いた会員吉岡時夫氏が二月九日になられました。謹んで哀悼の意を表します。

自分史の五〇年(二) —共産党物語り—

清水 新一

墜落

ここで奇跡的に一命を取り留めた事故に遭遇した日のことである。

これはページになる日の数日前で、電柱の上部にあつたケーブルヘッドの工事に出かけた時のことである。これはページになる日の数日前であつた。変電所のケーブルヘッド

ドまで昇って手をつけようとした瞬間、右手にガンと衝撃を受けた。

このとき三三〇〇ボルトの高圧線に触れていたのである、私はもんどううつて十八メートルの電柱から墜落していた。地上に仰向けになつて落ちていた。フト我に返った時、生きていたのである。この状況を見ていた同僚の話では、下にあつた電話線に引っかかつてバウンドして落ちたのだと言うことだつた。それで頭を打たなかつたために助かつたのである。もしこの事故で死んでいたらレッドページには遭うことが無かつた。

赤色追放 レッドページの日

朝から慌ただしい情報が関電京都支店内をかけ巡っていた。

共産党員とそれに同調する者は

解雇する。京都支店の解雇者八人の他、各配電局数十名のリストが通路に張り出されていた。理由は不明である。その日労働組合は集会を開いて会社に抗議しようとしたが、既に建物の周囲は七条署の私服刑事によって出入口は塞がれ

ていた。この日のために会社は秘密にページを準備していたのである。解雇された者が会社に入ろうとする不法侵入で検挙すると威嚇した。各家庭には内容証明の解雇通知が届けられていた。新聞各社はでかでかとページになつた者の名前を掲載した。解雇理由を示せ、と会社側に要求したが、支店長は我々と会うことを拒否した。

この時既に電産労働組合の中央本部は民主化同盟に支配されてい

たのである。有名なゼロ号指令と言われるものである。民同に従わない者は共産主義者であると言う焰印を押したのである。ゼロ号指令は踏絵の役割を果たしていた。会社の上層部は電産民同に助けられてレッドページを行うことが出来たのである。労働組合が分裂しなかつたら簡単には解雇出来なかつたであろう。その後アメリカG H Qは労働組合を分裂させたり、共産党のイメージを悪くするような事件を次々と起こしたのである。その後の情勢は会社経営者と社会民主主義者が労働組合を支配することになつて、人権裁判に見られるような人権侵害事件が各所に起ることになつた。

苦渋の選択

会社に出入りが出来なくなつた仲間たちは、近くのMさんの家に集まつて細胞会議、今の支部会議を開いて対策を練つた。

私達は会社に解雇理由を示せ、と迫つたが会社は終始沈黙して答えなかつた。日がたつにつれて会社の警備体制が緩んで、私達も会社に出入りすることが出来るようになつた。ページに合わなかつた仲間たちは

生活に困る仲間たちが資金カンパを訴えて物品販売を始めた。大

阪の菓子問屋へ買いだしに行つて

職場の仲間に売り歩いた。憲法を無視した超法規的なアメリカ占領軍マツカーサーの首切り反対の署名を集め、会社と労働組合に解雇反対を申し入れた。

生活に困った仲間たちは色々な議論の末、会社が示した条件をやむを得ず飲んで退職金をもらうことになった。

時間がたつにつれて仲間意識が薄れ、退職金を拒否して闘う仲間は減つて行つた。しかし、受けた侮辱は消すことは出来ない。退職金を貰つてもそれは生活をつなぐためで、不当解雇は違法だ。裁判で闘おうと集まつた者で二次裁判闘争がたつて細胞会議、今の支部会議を開いて対策を練つたのである。

三十二年間の裁判闘争

退職金を受け取らず闘いを続けた者は少数だつた。生活のためや社會が用意した依頼退職の形をとつたのである。形式を重視する裁判では本論に持ち込むために法律解釈に困難があり、裁判闘争に参加する者も少なくなつた。最初は弁護士をつけず選定当事者であった

が、裁判所から弁護士をつけてくれと指示があり、東中弁護士をお願いすることになった。しかし最後まで憲法違反の審理はなされず、最高裁でも門前払いで会社の継承問題で終始して終ってしまった。

これは日本の労働運動史上最大の汚点として、後の世に残されなければならない。

来年はレッドページ五〇周年を迎えるとしている。

共産党京都府委員会

河原町六条の延寿寺の二階にあつた。古い寺で古色蒼然化け物屋敷と言う感じであった。当時の丸物百貨店（今は近鉄）からは歩いて二十分程であった。

全党員集会はここで開かれた。

印象に残っているのは徳田球一の演説である。一九四八年彼は書記長であった。

革命は近い、今や我が党が天下を取る日が来る。同志諸君一層団結して奮闘しよう。我々が天下を取ればアメリカ帝国主義は我が国から出て行く。まず衆議院で谷口善太郎君を当選させよう。京都は山宣以来の革新の伝統がある。円山公園でも大演説をぶつた。聴衆を引き付けるアジテーター

であった。当時の若者は彼の演説に酔いしれたものである。

一九四九年の大躍進三十五名の後まで憲法違反の審理はなされず、最高裁でも門前払いで会社の継承

問題で終始して終ってしまった。誠に残念なことである。

これは日本の労働運動史上最大の汚点として、後の世に残されなければならぬ。

来年はレッドページ五〇周年を迎えるとしている。

そんなあだ名が付いた。加納君と言ふ若い常任活動家の印象が強く残っている。彼は腰に古い手ぬぐいをぶら下げ、ぶしきう髪をはやし、尻切れの草履を履いてひょうひょうとやってきた。党的組織オルゲとして下部機関の指導であつた。

なんでも聞いてくれる物柔らかな態度に党員の信頼が厚かつた。通称お寺と言われた京都府委員会は異様な雰囲気があり、労働者階級の前衛と言うにはあまりにも古風であった。現在の丸太町に移るまでは延寿寺にあつた。

そんな勢いも束の間、一九五〇年にはアメリカ帝国主義は本性を現し、共産党員のページを始め、機関紙「赤旗」の発行停止、国会議員三十五名の追放など反動化が

進んで朝鮮戦争が泥沼に入つて行く。そんな半非合法の中に加えて党の分裂であった。国際派と主流派と言う形で別れた。徳田球一や野坂参三らは主流派。志賀義雄

は更に悪くなつた。

この真犯人は誰か、占領軍が仕いた。椎名悦朗が臨時中央指導部員長になつた。そして五一年の武装闘争へと進んで行くのである。日本共産党の幹部は地下に潜つて姿を消して行つた。

宮本顯治たちは国際派と言われた。河田賢二や岡本のガンツウと言う人であった。ガンツウはあだ名で医者であった。古武士の風格を持つた彼は講談師ばかりの語り口で演説した。頑固でつうーと通るからそんなあだ名が付いた。加納君と言ふ若い常任活動家の印象が強く残っている。彼は腰に古い手ぬぐいをぶら下げ、ぶしきう髪をはやし、尻切れの草履を履いてひょうひょうとやってきた。党的組織オルゲとして下部機関の指導であつた。

「五一年綱領の誤り」

第五回全国協議会が残つた主流派の幹部たちで開かれ、中国革命の影響を受けた日本共産党は革命は銃口から、と言う戦略に変わつて行つた。そんな中で「五十一年綱領」が出されたのである。

この時党の分裂が致命的な誤りとなつた。軍事委員会の組織が出来たのもこの時代であつた。血のメーデー事件の発生は五二年である。

五一年（昭和二十六年）、日米サンフランシスコ条約が締結され形だけは独立国になつたが、実際はアメリカの目下の同盟国となり、安全保障条約が締結されて日本は軍事的にもアメリカの従属国になつてしまつたのである。

共産党は恐い、と言うイメージを更に深く植え付けたのは火炎ビン事件であった。

先の松川や下山、三鷹事件などの裁判が続いて共産党のイメージは更に悪くなつた。

この真犯人は誰か、占領軍が仕組んだ謎の事件である。反共は戦争前夜の声と言う言葉は有名である。最高裁判所まで行つて十四年かけて全国的に大運動に発展した松川運動は全員無罪で終つた。結果真犯人は不明のままであつた。

この時代の共産党の幹部は、京都府委員会や地区委員会の各級機関の常任活動家は厳しい生活を余儀なくされた。毎日がホームレスのような暮らしであつた。今夜はどこに泊めて貰うか、食事はどうするのか、連絡を取るのに秘密文書が届けられた。私服刑事につけられたらどうするか。A紙の発行場所やアジトが発見されたらすぐに変更することなど、神経をすり減らしての活動であつた。軍事委員会の活動家は半非合法の中で忍者のような生活をしていたのである。「五一年綱領」の誤りは党に大きな犠牲と損害をもたらした。党員は減少して全国で数万人となつていて。共産党は考え方が違うと戦略戦術に大きな影響を及ぼし、階級闘争に敗北したり、

大きな害毒を流したり、党の幹部の思想が試される厳しい組織集団と言ふべきものである。絶えず対決の先頭に立つて対立物の統一の一翼を担う闘いの組織だからである。近代資本主義の発生と同時に現れたブルジョアージとプロレタリアートとの対立物である。理想的な共産主義社会に行き着くまでに

は、人種・民族・宗教の違いをどう乗り越えていくか、人間の欲望をコントロールできるか、貧富の差を無くすることができるか、紛争を無くすることができるか、人間に課せられた課題は山積みしている。

(北区在住　しみず　しんいち)

京都・府市民団体協議会 二十五年の歴史(三)

田中　弘

一九八二年の京都府知事選挙で、府市民団体は民主府政奪還をめざし、再び「革新統一」選挙体制の確立に挑むことになった。

一九八二年の京都府知事選挙で、めの連結器の役割を果たしたい」とあいさつした川口氏の思いに通じるものである。

社共の話し合いは完全にデッドロックに乗りあげていた。社会党各界連)と共に、川口是京都大学教授に知事選出馬を要請した後の一ヶ月に開かれた府市民団体第三十二回全体会議は、①革新統一実現の努力と、②川口氏に出席を決意していた努力を統一的にすすめること、を決めていた。この立場は、八一年六月十八日に府立体育館で開かれた集会で、「革新勢力の長い列車ができるた

る。この立場は、八一年六月十八日に府立体育館で開かれた集会で、「革新勢力の長い列車ができるた。社会党京都府本部の最終態度は

「反自民、反林田で自主投票」というもので、川口候補の支持にはいたらなかった。しかし、選挙が始まる川口候補の演説会場には、「反共は核戦争前夜である」と訴える社会党員の姿があった。新しい民主府政の会に参加した京都総評では、三十九単産中三十三単産が川口候補を支持していた。

知事選挙は残念な結果となつたが、川口候補が獲得した三八万八、六六四票は、知事選の二年前に行われた八〇年衆議院選挙で社・共が取った三八万八、三七五票をわずかながら上まわっていた。

選挙結果　四月十一日
川口　是　三八万八、六六四票
林田悠紀夫六五万六、四三〇票

府市民団体にとって知事選や市長選は確かに主要な活動であった。しかし、選挙が活動のすべてだったわけではない。

富井市長を実現した翌年の一九六八年(昭和四十三)四月に開かれた第八回全体会議では、「具体的なこれから活動」の中で、次のように要求活動についての方針を決めている。

①府市民各層の要求を積極的に取り上げ、部会を中心に活動をすすめ、要求の実現をはかります。
②府市政の重大な問題については、そのつど検討会や研究会をもつて、府市民団体の英知を集めて、正しい政策が取られるよう働きかけます。

こうした方針の具体化で実現したものとしては、鶴川民主府政下の肢体不自由児養護学校の乙訓誘致や京都府移動劇場バスなどがある。富井市長時代に、府市民団体

体も少なくなかつた。

勿論こうした事態に手をこまねいていたわけではない。幹事会は何回となく組織の強化策について議論し、加盟団体や賛助会員の大活動強化募金の組織に取り組んだ。けれども、状況を根本的に変えることはできなかつた。

の働きかけで発足した交通再建問題対策協議会の取り組みも貴重な活動であった。

一九八〇年（昭和五十五）からは毎年加盟団体の要求を冊子にまとめ、府、市の理事者に直接会って説明し、文書による回答を求める活動を続けてきた。敬老乗車証の磁気カード化もこうした要求活動の中で実つたものである。

その他にも府市民団体ならではの特色ある活動がいくつもある。憲法五団体の一員としての憲法を暮らしに生かす集会の共同主催、

住民サイドからのまちづくりについて提案した「京都、あしたへの提言」（二場邦彦、片方信也）の発行、「大型間接税に反対する京都府民連絡会」への幹事団体としての参加、等々。

蟻川さんの逝去後、多くの府民とともに取り組んできた数々の蟻川虎三追悼事業や懇ぶつどいは、最も府市民団体らしい活動の一つといえるだろう。

撤退が的確に行えるのが名将、とはよく言われることである。撤退することはそれほど難しいことである。府市民団体のこの難しい問題を担当したのは最後の幹事長となつた仲田正機氏である。その実務を支えたのは川久保雄二郎事

務局長である。

府市民団体の「幕引き」については一九八八年頃から正副幹事長

会議などで議論が始まっている。しかし、これだけの歴史と実績のある組織のことである。思いは深く、そう簡単に結論の出るものではない。

一九九〇年（平成二）十月三日に開かれた拡大代表委員会において、仲田幹事長はこれまでの議論の経過を踏まえ、府市民団体の今後のあり方について次のように提案した。

①府市民団体の活動を十一月一日から当分のあいだ休止する。②必要性と条件がある場合には活動を再開する。③次期全体会議が開催されるまで現役員があたる。

その後開かれた幹事会はこの提案を再確認し、一九九〇年十一月一日から活動を休止した。四分の一世紀にわたつて活動してきた府市民団体はここに歴史的役割を終え、活動を終了したのである。

全国に例を見ないユニークな府市民団体のような組織はどうして京都に生まれ、歴史的な役割を果たすことができたのか。その答の一つは民統会議以来の京都における革新の伝統である。二つは蟻川民主府政の存在である。蟻川虎三

という不世出の知事の存在をぬきにしては府市民団体の活動を考えることはできない。

府市民団体のそれぞれの歴史を支えてきた歴代会長は次のとおりである。

富井清、桜井英徳、堀江友広、中野信夫、尾崎祐一、今井俊一、壽岳章子
以上

「天皇事件を語る会」が開かれました

小畑 哲雄

去る十一月十二日、京都せいきょう会館で、「京大天皇事件を語る会」が開かれました。サンフランシスコで調印された講和・安保両条約の批准を目前にして、近畿地方に「巡幸」した昭和天皇が京大を訪問したのが、ちょうど五十年前の十一月十二日、このとき起きたとされる「事件」の関係者を始め、たまたまその場に居合わせただけという人、その場にはいなかつたが、「事件」に強い関心を持つている人、更には、修士論文のテーマにこの「事件」を取り上げようとしている現役の大学院生などなど約六十人が参加しました。ご存じの方も多いと思いますが、

ことも決めていました。大学当局との間に、交通整理のために数人の警官が入ることについて話し合ひもできました。

今回の会には、処分された八人

中、現存の七人全部が顔をそろえたのですが、それは、この「事件」

の後にも前にもなかつたことでし

た。卒業間近の青木委員長は、事

実上退いていましたし、内山副委

員長は下宿で休んでいました。倉

野執行委員は、工学部の教室で終

日、実験をしていました。今は故

人となつた武田委員長代行は、そ

の二日前に別の事件で逮捕状が出

されて姿をくらましており、総務

部中央委員（書記長に当たる）代

行の私は警察の留置場にいました

（後で考えると、これは全くの濡

れ衣であり、戦前の「予防拘禁」

とおなじようなものでした）。

五十年ぶりに再会した被処分者が、それぞれの思いを語りました。国会に参考人として呼ばれた青木氏は、権力はなんとかして「不敬罪」を適用しようとした、しかしそれができないので「公安条例違反」で立件しようとしたが、結局公判を維持できる証拠がないのであきらめたのだ、と語りました。また「公開質問状」の筆者である中岡氏が、天皇の目に見えると

ころだけきれいに塗り変え、見えないところはそのままにしておく、ということに人間としての怒りを感じて書いた、とその時の思いを語りました。

「平和を守れ」の大合唱は、本部一階の天皇の耳にも届いたらしく、進講中の教授に「あの歌はなんだね」と質問し、「平和の歌でございます」と答えられると、「な

想の余韻であつたのかもしれません。参加者の一人から後日、「二十一世紀幕明け早々の何とも不気味な動きを前に『初心忘るべからず』

（おばた てつお
元京大同学会総務部中央委員）

かなかいい歌だね」と天皇が感想を述べたという話も伝わっています。「平和を守られ」をナツメロとして口ずさむのではなく、若い世代にこの歌声を引き継いでいくことが肝要と思つております。」との感想が寄せられました。

編集後記

四月七日知事選挙は残念な結果に終りました。しかし無党派層を吸収した森川候補が前回票を大きく伸ばして三九万票をこえたことに、やはり時代の底を流れる力強さを感じさせられます。

ちまたでは機密費問題と有事立法が大きな話題です。週刊誌等も取り上げる前者は、やはりそうだったかと妙に納得しますが、今さら驚きはしません。しかし後者は、これから日本の進路を危険に導く重大な問題です。明治憲法下の一九三八年に國家総動員法が上程された時でさえ「違憲」の声があり、議会では政府委員の陸軍中佐が「だまれ！」と一喝して問題と

なりました。平和憲法下の現国会では多数与党がどなる必要もなく有事法制を通そうというのではなく、自衛艦はすでにアラビア海に出動しています。小泉首相は「備えあれば憂いなし」といますが、有事法制がその上にあらたな憂いをつくり出そうとしているように見えます。

会および会報については、左記へご連絡下さい。
〔事務局〕

〒六〇六一八一〇七

京都市左京区高野東開町
一一二三 第三住宅

三三一三〇二 井手 幸喜
TEL FAX ○七五七二二一三八二三